

## 平成25年度事業報告書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

(特定非営利活動法人 NPO 福祉用具ネット)

### 1 事業の成果

本年度から定款改正に伴い、事業内容を8つから4つの事業に整理し報告書をまとめました。

#### ① 福祉用具および住環境に関する相談・調査・開発・供給などの活用と整備の推進に関する事業

県外・県内企業からの開発相談の内容は、福祉用具や医療・健康介護用品や介護支援システムなどに関するものです。14製品に関するものでした。

また、開発品の臨床試験や調査研究など5製品について合計8件の業務委託事業を受け、大学と連携し関係施設やユーザーにも協力していただき検証を行いました。

その他、長期的な調査研究の依頼も3件ありました。これも大学や施設などと連携して実施しました。

11月に開催された西日本国際福祉機器展には、本NPOの開発品や開発相談を受けた企業の製品などを中心に15社と連携して展示し、ユーザーに向けて商品のPRを行いました。また直接にユーザーからの声を聴く場となるなど貴重な機会となりました。

本NPOは、本年度から企業を対象に「ものづくり支援センター」を稼働させました。経験豊かな専門のスタッフも常駐させています。その一歩として、くまもとバイオメディカル関連技術・市場調査研究会からの依頼にて7月9日にはこれまでNPOとしてものづくりに携わってきた経験をお話しする機会を得、福祉用具開発のための講演を行いました。その後、徐々に企業からの事業化相談なども増え、これまで17社の企業からの相談に対応いたしました。

さらに、7月から国の事業としてスタートした「ヘルスケアサービス産業推進協議会」の発足に伴い、その事業の組織の中核組織であるヘルスケアサービス部会の委員としても参画しました。その結果、新しい企業とも繋がるきっかけを得ることもとなりました。さらに本NPOの活動をアピールする場にもなりました。

(なお、相談を受けた製品や企業名は秘密保持のために非公開とします。)

#### ② 生活の質の向上に向けた相談・調査・啓発・研修などの事業

電話及び訪問による介護相談や福祉用具の使い方相談は、全国から多数寄せられています。本NPOのホームページに「自動排泄処理装置 尿吸引ロボ ヒューマニー」の使い方の工夫をたくさん掲載していることもあって、特にヒューマニーの使い方に関する内容が一番多くありました。専門職や介護者からの相談が中心となっています。

事例に応じた工夫が求められるのが福祉用具の特徴であり、特に排泄ケアは配慮すべきことも多く当事者の皆様もこれ以上のQOLの改善は無理だとあきらめていることも多いようです。それでも、新しい福祉用具である自動排泄処理装置に大きな期待を寄せられるのですが、現場の支援が不十分のために余儀なく導入をあきらめなければならないというケースもあるようです。まだまだ新しい

福祉用具の情報も知らないで、生活の快善をされていない方もいるようです。必要な人に必要な福祉用具の情報を届け、さらに上手に活用できるようにサポートすることが求められていることを実感しました。

研修事業は年間事業計画に沿った5回の研修会や、11月の西日本国際福祉機器展で集中的に開催する無料の16のテーマのセミナー、さらに外部からの要請で行う研修会が4回ありました。年間計画に伴う定期的な研修会は、セミナー情報をホームページで公開をしていることから、関西など遠くから参加申し込みをいただいています。

福岡県立大学福祉用具研究会も今年は15周年を迎えました。福岡県立大学と共催での運営です。今年は「最新の福祉用具の情報をカタログから読み解き、利用者像を考えよう。」というテーマで開催しました。会員数30名です。参加者の福祉用具に対する姿勢は長年継続してきたことでレベルも高く、職種間の活発な意見交換が行われています。会員同士の信頼関係も深く、互いに現場で相談できるネットワークとして育っています。研究会の進行は会員が順番で担当しています。今年の成果は特に排泄ケア用品について学び、現場から福祉用具専門相談員さんに対するオーダーシートを検討しました。ポータブルトイレや自動排泄処理装置、オムツについて深く学ぶことができました。

9月7日は、本NPOの創立10周年記念イベントを開催し150名の方に参加していただきました。基調講演「事例から学ぶ自立(律)支援」について、九州栄養福祉大学教授 橋元 隆氏にお話ししていただき、引き続いて、現場からの福祉用具活用の実践報告について4人の登壇者に在宅介護者、ケアマネージャー、介護施設、訪問リハの立場で発言していただきました。その後フロアとの意見交換も活発に行われ有意義な記念行事になりました。開発協力品の展示や、10年間の事業内容をフォトストーリーで紹介をし、10年間のNPOの活動を広く紹介する場となりました。後日、西日本新聞にも活動内容が掲載されました。

### ③ 安全な生活に向けたバリアフリー化に関する相談・調査・啓発・研修などの福祉のまちづくりに関する事業

福祉住環境コーディネーター協会からの委託事業である先進的施設見学の企画では、5月11日福岡県障害者支援施設「篠栗園」、6月22日熊本県、「くまもと江津湖療育医療センター」、7月12日社会福祉法人九州キリスト教社会福祉事業団介護保険総合ケアセンター「いずみの園」、10月5日は社会福祉法人福岡ろうあ会 養護老人ホーム田尻苑を見学しました。いずれも「一見は百聞に如かず」各々に対象者に応じたさまざまな配慮がされた特徴のある施設で大変有意義な見学になりました。

また、福祉用具や住環境整備の重要性について今一度多くの方に考えていただきたいと考え、西日本国際福祉機器展において、「福祉用具と住環境整備それを活かした生活とは」について、本NPO理事で佐賀大学医学部准教授 松尾清美氏に特別講演を行っていただき、多くの来場者に熱心に聴講していただきました。

### ④ 情報誌及び出版物の発行など会員や市民との文化交流事業

情報誌「ささえ」は予定通りに年4回の発行を継続できました。編集委員によって内容を検討し、益々充実した内容となり、これまでに46号まで発行しました。これらの情報誌の内容はすべてホ

ホームページでも公開しております。執筆には多くの会員の皆様や理事に協力していただきました。

今年には福岡県立大学福祉用具研究会が 15 周年を迎えるにあたり、福岡県立大学より記念誌を発行することになり、これまでの本 NPO の情報誌に掲載された内容の中で福祉用具研究会活動と関わりが深く連動する内容について転載していただくことにしました。それらの記念誌は、15 年間福祉用具研究会を支えていただいた関係者や多くの専門職の方に配布し、有意義に活用していただくようにいたしました。

平成 15 年に発行した「移乗マニュアル」の販売も、西日本国際福祉機器展に於いて専門学生の皆様などに安価で販売いたしました。10 年前に発行した「抱えない介護技術」の提案が、介護技術セミナーなどの開催の反響などから、ようやく介護現場に受け入れられつつあることを実感しています。

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(円)
① 福祉用具および住環境に関する相談・調査・開発・供給などの活用と整備の推進に関する事業	◆開発相談 17 社	4 月から 随時	事務局 他	常勤 1 名 他 1 人	相談企業 17 社とその他の関係者多数	4,913,709
	◆開発品の検証 受託事業 5 製品 8 件	4 月から 随時対応	事務局 田川郡 別府市	常勤 1 名 他 10 人	関係企業と開発者 若干名	
	◆調査研究受託事業 3 件	4 月から 継続中	飯塚市 大分県 他	常勤 1 名 他 10 名	関係企業及び大学 や関連施設など研究者若干名	
	◆西日本国際福祉機器展にて開発協力品等の展示	11 月 22 日 から 24 日 3 日間	北九州 市	常勤 1 名 他 30 名	関係企業 15 社とユーザー多数	
	◆企業対象にもものづくりのための講演	7 月 9 日	熊本市	2 名	参加企業関係者 50 人	
◆ものづくり支援センター事業	随時	福岡県 東京	4 名	相談企業関係者		

	<p>企業からの事業化 相談 5 社</p> <p>◆ヘルスケア産業 推進事業支援</p>	随時	九州	2 名	関係企業及び行政 など関係機関若干 名	
② 生活の質の向 上に向けた相 談・調査・啓 発・研修など の事業	<p>◆電話及び訪問に よる介護相談や福 祉用具の使い方相 談</p> <p>(各種研修会種)</p> <p>◆排泄ケア研修会 3 時間</p> <p>◆認知症の診断と 治療研修会 2 時間</p> <p>◆看護のキネステ ィクス®ベーシ ックコース 3 日間</p> <p>◆動作介助とポジ ショニング研修 技術習得コース 1 日間</p> <p>フォローアップコ ース 2 日間</p> <p>◆福祉用具体験講 座 排泄ケアの最 前線 3 時間 福岡県立大学共催</p> <p>◆FJC セミナー排 泄ケア最前線 自動排泄処理装置 の選び方・使い方 セミナー 3 時間 FJC 協会共催</p>	随時	事務局 福岡県	常勤 1 名	医療介護専門職及 び介護者など多数	1,531,052
		5 月 18 日	田川市	常勤 1 名 他 20 人	受講者 50 名	
		6 月 29 日			受講者 86 名	
		6 月 1 日 ・ 2 日			受講者 21 名	
		7 月 20 日				
		9 月 27 日			受講者 18 名	
		9 月 28 日 から 29 日			受講者 36 名	
		7 月 10 日	田川市	常勤 1 名	受講者 10 名	
		8 月 24 日	田川市	常勤 1 名	受講者 10 名	

◆ヒューマニーの 使い方	8月27日	明石市	常勤1名	受講者介護職など 10名
ユニ・チャーム ヒューマンケア (株)共催	3月12日	飯塚市 施設内	常勤1名	受講者介護職など 20名
◆自動排泄処理装 置の選び方・使い 方	3月4日 3月5日	東京企 業2社	常勤1名	排泄ケアアドバイ ザーなど関係者 30 名
◆福祉用具活用法 2時間 日本福祉用具供給 協会福岡ブロック 主催	12月7日	宮若市	常勤1名	受講者ケアマネー ジャー35名
◆西日本展示会 セミナー開催	11月22日 から24日 3日間	北九州 市	常勤1名 他20人	受講者 専門職や学生など 合計約500名
<b>排泄ケアセミナー</b>				
① ポータブルト イレの選び方	11月22日			
② 特別講演 「排泄ケアで 大切なこと」 2時間 FJCとの共催事業				
③ 自動排泄処理 装置の選び 方・使い方	11月23日			
④ オムツの上手 な当て方				
⑤ オムツは下着 です				
⑥ テーナからの 排泄ケアの提 案	11月24日			
⑦ 自動排泄処理 装置 尿吸引 ロボヒューマ ニーの使い方				

	<p>⑧ 自動排泄処理装置マイネレット爽の使い方</p> <p><b>介護技術セミナー</b></p> <p>⑨ 床ずれ防止用具の選び方&amp;最新車いす用クッションの紹介</p> <p>⑩ トランスファーボード&amp;シートを使った移乗技術</p> <p>⑪ 階段昇降機&amp;段差解消機の上手な活用法</p>	<p>11月22日</p>				
	<p>⑫ リフトの選び方と使い方</p>	<p>11月23日</p>				
	<p>⑬ ポジショニングクッションの使い方</p>	<p>11月24日</p>				
	<p>⑭ 高齢者の美容療法ビューティー&amp;タッチセラピー</p>					
	<p>⑮ 新製品 体圧検知センサーの活用法の提案</p>					
	<p>⑯ 看護のキネステティクス®体験講座 4回開催</p>	<p>11月23日 11月24日 各2回</p>	<p>北九州 市</p>	<p>2名</p>	<p>受講者 26名</p>	

	◆福祉用具専門相談員養成講座コンサルタント(福岡市職業訓練協会委託事業)	4月 7月 10月	事務局	常勤1名	受講者45名	
	◆福祉用具研究会8回シリーズ テーマ「最新の福祉用具の情報をカタログから読み解き、利用者像を考えよう」	4月から 11月まで 8回	田川市	常勤1名	参加者医療介護等 専門職延べ200名	
	◆創立10周年記念イベント 基調講演とシンポジウム	9月7日	田川市	常勤1名 他10名	専門職及び一般参加者150名	
	◆ホームページによる福祉用具(自動排泄処理装置ヒューマニー)活用方法の公開	随時	事務局	常勤1名	不特定多数	
③ 安全な生活に向けたバリアフリー化に関する相談・調査・啓発・研修などの福祉のまちづくりに関する事業	◆FJC 協会委託事業施設見学 篠栗園 5/11 くまもと江津湖療育医療センター 6/22 中津いずみの園 7/12 田尻苑 10/5  ◆西日本国際福祉機器展 特別講演「福祉用具と住環境整備それを活か	5月から 10月まで      11月23日	大分県 福岡県 熊本県    北九州市	常勤1名 他1名     常勤1名 他1名	福祉住環境コーディネーター30名       医療介護福祉専門職および一般50名	282,602

	した生活とは」					
④ 情報誌及び出版物の発行など会員や市民との文化交流事業	◆情報誌の発行 年4回/43号から46号 およびホームページ公開	1月/4月 7月/10月	事務局	常勤1名 他20名	会員及び一般の不特定多数	341,657
	◆創立10周年記念行事資料発行	9月7日	事務局	常勤1名 他6名	会員及び参加者 200部配布	
	◆福岡県立大学福祉用具研究会15周年記念誌発行協力	10月から 11月	事務局	常勤1名 他1名	会員及び専門職 など200部配布	
	◆出版物の販売	随時	事務局 北九州市	常勤1名	専門職・学生など 購入者若干名	

(2) その他の事業

該当なし